

2023年 先生のための夏休み経済教室

「経済の視点から地理の授業をつくる」  
— 行壽先生の実践報告に関連して —

2013年8月22日(火)

**三橋 浩志**

(文部科学省 初等中等教育局)

# 【社会科（地理）教育における経済地理学習の視点】

## 「経済地理学習」の主な活動や目標

【選択】 系統地理学としての経済地理学、望ましい国土像の事例テーマ（地理探究）

【必履修】 生活文化としての経済学習、生活圏学習の事例テーマ（地理総合）

### 義務教育

日本の特色と地域の特色（中学校）

産業を主題にした地域の理解（中学校）

生産性、品質の学習（小学5年）

地域と企業（個店）の歴史（小学4年）

企業（個店）の「工夫」（小学3年）

## 「経済地理学習」に必要な視点

経済地理学の最新の学説なども勘案。  
→「18歳成人」として「国土づくり」

産業そのものの学習ではなく、地域の生活文化の理解。地球的課題や国際協力、望ましい地域像などは、持続可能な地域づくりとの関係で学習。  
→産業学習に深入りせず、生活文化学習

中学生は、世界地誌、日本地誌の地誌学習での主題、テーマとしての産業学習。産業の理解ではなく、地域の理解が目標。  
→「物産の暗記」にならないように留意

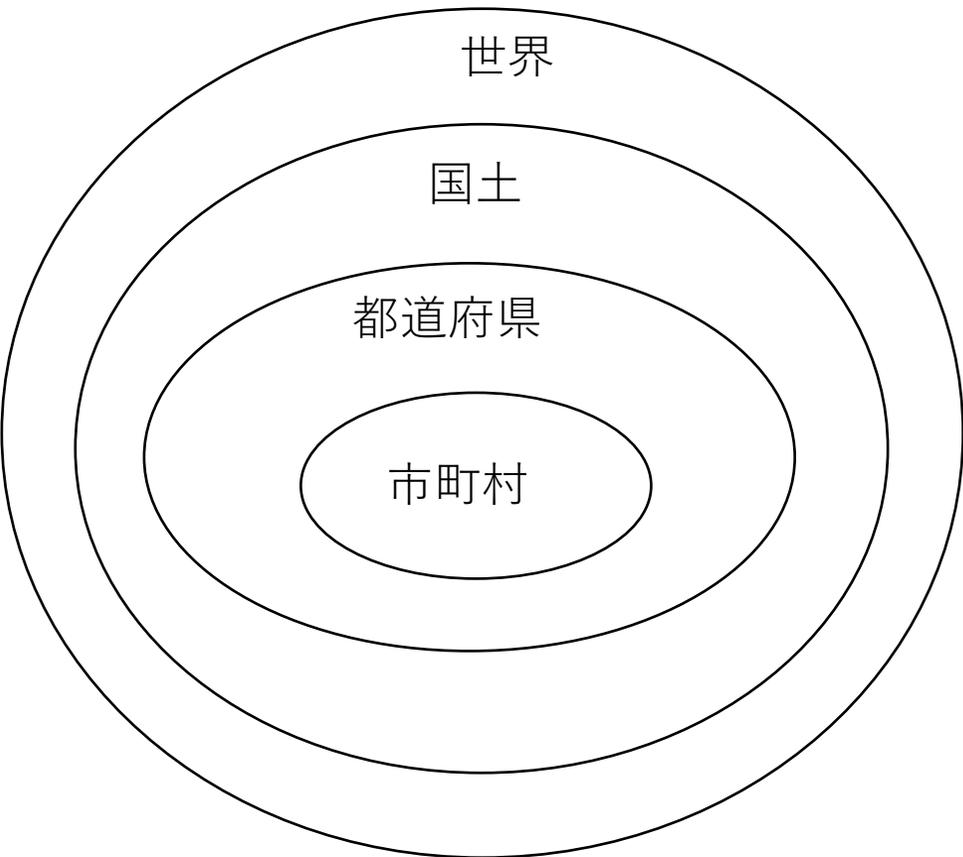
小学生は、「工夫」概念から、「つながり」「生産性・品質」概念に年齢の応じて発展  
→経済地理の概念を個別事例から地域に展開

# 小学校の社会科での経済地理学習＝経済現象の社会認識の形成＝系統地理的学習

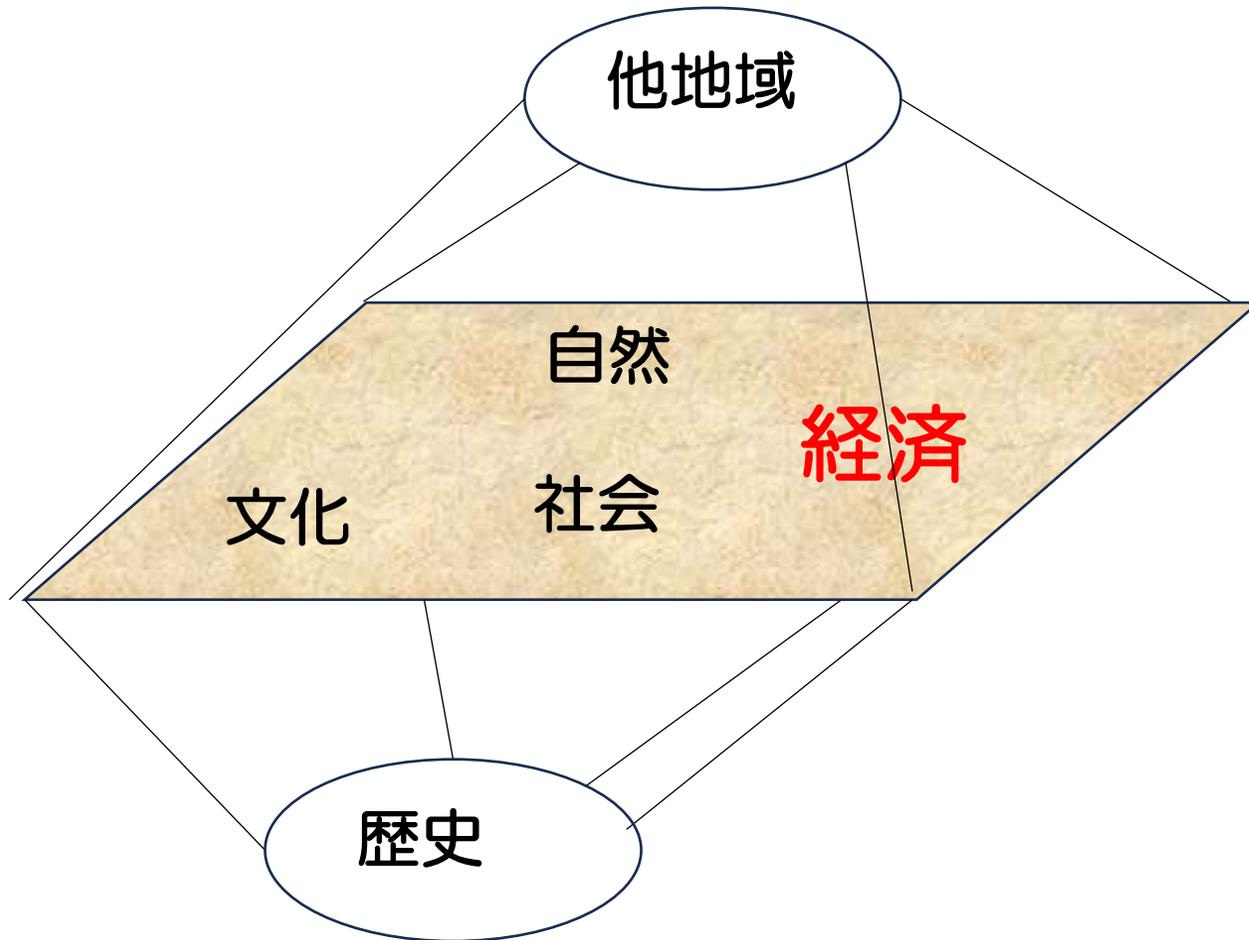
主にミクロ経済学が扱う経済現象

社会における経済現象の概念（社会認識）  
を発達段階に応じて形成する

- 3年生：ミクロの「工夫」←需要と供給
- 4年生：ミクロの「継続性」  
（一部セミマクロ）
- 5年生：ミクロの「生産性」「品質」  
（一部セミマクロ）
- 6年生：マクロとの関わり（国際経済）



# 中学校の地理学習＝地誌学習



経済現象は、あくまでも地域の理解を深めるための視点  
×経済地理的事象の理解ではない

経済を中心に他の地理的事象を結びつけて学ぶ「動態地誌学習」  
←項目を暗記するだけの「静態地誌」への反省

# 【現実の経済現象と学習内容の乖離】

- 経済地理学の伝統的な成果や定番的な教材や用語（例：「四大」工業地帯など）と、現実との乖離などをどの様に捉えるべきか？
- 経済のソフト化などの現実の変化と、基礎的な学習内容の基本項目をどの様に授業のなかで結びつけるか？（例：チューリップの日本一の生産県を富山県と扱う授業が多いが、「切り花」の日本一は新潟県。経済成長は輸出が牽引した時代の「球根の輸出」の富山県と、21世紀の経済のソフト化で国内需要の切り花の中心の新潟県をどの様に扱うか）
- 児童・生徒の発達段階を考慮した経済地理学としての一貫的な学習をどの様に考えるべきか？

## 【スパイラルな学習の意味をどこまで実践に組み込むか】

- 小学校で日本全体の工業学習などは既習済み。「四大工業地帯」なども既習済みのなかで、中学校の日本地誌学習で、何を深めるのか？
- また、中学校では世界を州大陸単位で地誌学習をしており、そこで経済地理的な内容は既習済み。高校の必修科目「地理総合」で経済地理分野を学ぶ際、生徒の発達段階をどの様に捉えるべきか？（「深い学び」は学習用語を増やすことか？）
- スパイラルな学習の意味を小中高の一貫性のなかで如何に考えるか。

## 【「物産の暗記だけ批判」をどの様に意識するか】

- 経済地理分野の学習は、「地名物産の暗記」として正誤判断が明確なため、試験問題に出題しやすい。その結果、「物産の暗記」としての経済地理分野への比重が高かった。
- 一方で、中学校の地誌学習、高等学校「地理総合」の「世界の生活文化の学習」で経済地理的な内容を扱う際に、「地域の理解」や「生活文化の理解」という目標を意識した実践になっているか。経済地理に関する事象を網羅的に学ぶ（暗記させる）実践になっていないか。
- しかし、国民の基礎教養としての「地名物産の暗記」も一定必要。「スマホでネット検索するので、地名物産の基礎的知識は不要」との意見もあるが、「鳥取県と島根県の位置関係が分からない」「みかんといえどどの県の特産品か分からない」国民を育てることは、やはり問題では・・・。

# 【アクティブラーニングと経済地理学習の関係】

- 経済地理学習が、昨今話題の地政学的な考察(例：海洋国家はシーレーンの確保が経済安全保障上からも重要)や、安易な自然決定論的な学習(例：石油は新規造山帯に分布していることが多いので、資源国家は新規造山帯に位置している)に陥らないように留意する必要がある。特に、高校時代に地理を学んでいない社会科教員が大半のなか、「地理嫌い」を生じさせない教材開発が待たれる。
- 経済地理学習をアクティブラーニングとして考える際、何を生徒に身につけさせるかを意識することが重要。知識理解に加えて、「社会参加」や「構想力」を目的とするには、意志決定(Decision Making)に資する資料の取舍選択や読み取りが重要。
- さらに、それらを組み合わせた資料の分析や考察を行うことで、意志決定に向かうことが重要。そのような経済地理学習の教材開発が待たれる。

## 【SDGsと経済地理学習の関係】

- 経済地理学習が「地域経済の活性化」を志向して経済学的な考察を重視することは大切。一方で「歴史的な経緯」や「文化の維持」などを鑑みて人間が地域で暮らしていることを考察することも地理教育では重要。「なぜ、非効率な地域に人間は住まなくてはいけないのか・・・」に気付くことも経済地理学習では重要ではないか。経済効率性だけでは、人間は生きていけないことにも気付くことが社会科教育では重要。
- 持続性が「地球全体での幸福」に加え、「個人としての幸福」とのバランスのなかに位置づけることが重要。ESDとして考えると、経済学や社会工学とは異なる地理学ならではの視点も重要。法教育などを重視する公民教育、そして必修修の新科目「公共」との連携も重要。

# ご静聴ありがとうございました

- ※ 本報告は、所属組織の公式見解ではなく、発表者の個人的見解と個人研究の成果です。
- ※ また、本報告は所属機関の見解に影響を与えるものではありません。